

最近14年間の群馬県立がんセンター泌尿器科 入院手術統計 (1986年1月～1999年12月)

群馬県立がんセンター泌尿器科 (部長: 鈴木孝憲)

鈴木 孝憲, 岡崎 浩, 鈴木 光一

小野 芳啓, 田村 芳美

CLINICAL STATISTICS ON IN-PATIENTS AND OPERATIONS DURING A 14-YEAR PERIOD (1986-1999) AT DEPARTMENT OF UROLOGY, GUNMA CANCER CENTER

Takanori SUZUKI, Hiroshi OKAZAKI, Kouichi SUZUKI,

Yoshihiro ONO and Yoshimi TAMURA

From the Department of Urology, Gunma Cancer Center

The patients, diseases and operations experienced between 1986 and 1999 in our department were analyzed. The number of in-patients has been increasing since 1995. Renal cell carcinoma, urinary bladder cancer and testicular cancer have been gradually increasing recently, and in-patients with prostate cancer have increased markedly. Pelvic and ureteral cancers were almost constant during this period. Radical nephrectomy and prostatectomy have been increasing since 1994 and 1990, respectively. The examinations for malignancy, especially prostate biopsy, have been increasing. (Acta Urol. Jpn. 46 : 519-522, 2000)

Key words: Clinical statistics, Gunma Cancer Center

緒 言

群馬県立がんセンターは1972年4月に群馬県立がんセンター東毛病院として、癌・小児慢性疾患・結核の三部門の診療を開始した。同年4月に泌尿器科が開設され、今年で28年になる。当院は1998年4月に群馬県立がんセンターと改称され、がん専門病院として再出発したところである。そこで今回、最近14年間(1986～1999)の入院手術統計を行ったので報告する。

対象および方法

入院統計は、1986年1月より1999年12月までに群馬県立がんセンター泌尿器科に入院した患者を対象とした。手術内容については癌に対する手術をおもに登録し、画像診断、治療目的の血管カテーテル法、癌精査

目的の生検は除外した。1回の入院で複数回の手術を施行した場合は、主たる手術を登録した。癌の合併症に対する観血的手術は手術に登録した。良性疾患に対する入院での観血的手術は登録し、外来での手術はすべて除外した。

統計処理は複数年度にまたがる入院は入院年度に登録し、同一疾患で1年間に複数回入院した場合は入院した回数を登録した。

結果および考察

1 入院患者数と手術件数 (Table 1)

1) 患者総数: 14年間で2,571人が入院した。男性2,192人, 女性379人, 男女比5.8:1であった。入院患者数は1995年以後、増加していた。男性の入院患者数が多く、年々入院数が増加している結果は、他の報

Table 1. 入院患者と手術件数

年度	1986	1987	1988	1989	1990	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999
患者数	167	156	181	152	140	148	175	169	134	189	185	234	239	302
男性	132	133	155	127	117	122	152	142	123	161	161	192	201	269
女性	35	23	26	25	23	26	23	27	11	28	24	37	38	33
手術件数	71	75	73	83	54	52	68	52	57	56	58	78	73	88
男性	54	66	69	72	44	44	59	47	51	42	48	59	66	78
女性	17	9	14	11	10	8	9	5	6	14	10	19	7	10

Table 4. 膀胱癌症例

年度	1986	1987	1988	1989	1990	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999
患者数	43	40	38	36	42	29	41	48	31	23	32	66	45	53
男性	31	37	29	30	33	26	31	35	28	14	26	51	38	45
女性	12	3	9	6	9	3	10	13	3	9	6	15	7	8
膀胱全摘	1	5	3	0	6	2	5	2	1	0	2	8	2	2
膀胱部分切除	2	3	2	2	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0
TUR	34	22	19	20	17	21	25	15	19	19	22	41	31	41
その他	0	1	2	1	0	0	2	1	2	0	0	0	0	6

Table 5. 前立腺癌症例

年度	1986	1987	1988	1989	1990	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999
患者数	15	8	19	16	23	19	32	25	34	59	31	50	78	119
前立腺全摘	1	1	0	0	2	2	3	3	4	3	3	0	1	4
その他	1	0	4	3	5	2	3	3	1	1	2	7	3	2

Table 6. 前立腺肥大症例

年度	1986	1987	1988	1989	1990	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999
患者数	8	9	24	34	14	14	21	15	11	15	16	7	14	8
前立腺被膜下	4	9	12	16	6	6	9	5	3	1	1	1	3	3
TUR	4	0	9	17	3	8	12	10	8	14	15	6	11	5

Table 7. 精巣癌症例

年度	1986	1987	1988	1989	1990	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999
患者数	3	5	4	1	1	0	4	9	3	3	3	2	3	12
高位精巣摘除	2	2	3	0	1	0	2	5	3	3	1	2	3	10
RPLD	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1

Table 8. その他の癌症例

年度	1986	1987	1988	1989	1990	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999
副腎癌	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
Wilms 腫瘍	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
尿道癌	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
陰茎癌	1	0	1	1	0	1	1	1	1	0	0	1	2	1
尿膜管癌	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0

Table 9. 癌の精査目的入院症例

年度	1986	1987	1988	1989	1990	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999
副腎	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0
腎	0	0	1	0	1	0	0	1	1	0	0	0	0	0
腎盂尿管	0	0	1	0	0	0	0	1	0	1	1	2	3	0
膀胱	4	3	4	4	0	4	3	1	2	5	5	1	6	2
前立腺	12	11	36	24	23	27	48	46	35	64	58	72	62	88

ンパ節郭清術が施行されていた。

6) その他の癌 (Table 8): その他の癌では陰茎癌が最も多く見られ, つぎに尿道癌であった。14年間で尿膜管癌 3 例, 副腎癌 1 例, Wilms 腫瘍 1 例であった。

7) 癌の精査目的入院症例 (Table 9): 癌の精査目

的で生検または細胞診検査 (のう胞穿刺など) を施行した症例を集計した。最も多い検査は前立腺針生検で, 年々増加していた。生検法は超音波下系統的生検法⁶⁾が施行されていた。腎盂尿管の精査は, 最近では尿管鏡下の観察と生検が施行されていた。

8) 良性疾患および他科疾患の合併症に対する手

術：前半では停留精巣に対する精巣固定術，陰嚢内手術，水腎症に対する腎摘出術，尿路結石症に対する手術，腎瘻造設術など良性疾患に対する手術が行われていた。後半では他科の癌治療後の合併症に対する尿路再建手術がおもに行われていた。子宮癌浸潤，他科再発癌による水腎症に対しては尿管ステント留置を第一選択に施行しているが，今回の手術統計では除外した。

結 語

1. 群馬県立がんセンター泌尿器科における最近14年間（1986～1999）の入院手術統計を報告した。
2. 腎細胞癌，膀胱癌，前立腺癌，精巣癌の入院患者数の増加が見られた。
3. 手術では根治的腎摘出術，前立腺全摘出術の増加がみられ，膀胱癌に対する手術では TUR-Bt が主であった。尿路変更術ではインディアナパウチ式尿路変更，ハウトマン式自然排尿型尿路再建術が近年では施行されていた。
4. 癌の精査目的入院患者では前立腺針生検が最も多く，年々増加していた。

本論文の発表にあたり，これまで当科に勤務されました佐藤 仁先生，諸先生方のご業績とご苦労に対し深く感謝申し

上げます。

文 献

- 1) 川村 博，川喜多繁誠，佐藤 尚，ほか：最近20年間の関西医科大学附属病院泌尿器科入院手術統計。泌尿紀要 **43**：241-244，1997
- 2) 山口千美，西村洋司，富永登志：三井記念病院泌尿器科における27年間（1970年6月～1996年12月）の手術統計。泌尿紀要 **44**：907-913，1998
- 3) 宮川美栄子，木原裕次，岡垣哲弥，ほか：島田市民病院泌尿器科における手術統計（1992年～1996年）。泌尿紀要 **43**：756-762，1997
- 4) 玉木正義，前田真一，山田 徹，ほか：トヨタ記念病院泌尿器科における11年間（1987年～1997年）の手術統計。泌尿紀要 **45**：293-297，1999
- 5) 山中英寿，鈴木孝憲：前立腺肥大症。図説泌尿器科学講座3，泌尿器科腫瘍学。吉田 修，三宅弘治，小柳知彦編。pp. 259-301，メジカルビュー社，東京，1991
- 6) Hodge KK, McNeal JE, Terris MK, et al.: Random systematic versus directed ultrasound guided transrectal core biopsies of the prostate. J Urol **142**: 71-75, 1989

(Received on January 26, 2000)

(Accepted on March 16, 2000)